

【実施署：木曽森林管理署】

私は、林業大学校に入学する前から森林管理署については公務員の仕事というものに興味があった。しかし、実際にはどのような仕事をしているかということについては、あまり知らなかった。そして今回インターンシップという形で木曽森林管理署での体験研修に参加させて頂くことができ、実際にはどのような教務が行われているのか知ることができた。

五日間の内、収穫調査の一部、製品生産は雨のため現場での実習は出来なかったが、内業でどのような事を行っているのかを学ぶことが出来た。

収穫調査では、プロット調査を行った。実際は雨で本格的な調査を行うことは出来なかったが、雨が上がり少し実習を行うことが出来たため大まかなことが出来た。プロットで行う調査は正確とはいかないが、広大な国有林を効率よく調査するにはこういった方法でやらなければならないということが分かった。

製品生産は、雨のため実際に現場を見ることが出来なかったが、架線集材を行うための内業での作業を行い、こういった作業では経験が必要だと実感した。

販売業務では実際に貯木場に行き、どのようにして木材が売買されているのかというものを知ることが出来た。

治山事業では、初めに現在工事中の現場での検査を行った。発注したとおりに出来ているか、森林の環境や下流に暮らす人たちのためにもしっかりとやらなければならない仕事だった。斜面が崩壊したままだと土壌が流れ出て木が育たず、森林ができないそういったことがないようにするための治山工事だと改めて知ることが出来た。次に行った現場では、既に工事は終わっているが、植物があまり生えていない場所への種まきを行った。工事は終わっていてもまだまだやらなければならない仕事があると知ることが出来た。

林道用務では、初めに林道破損箇所修復工事の検査ここでも治山事業の現場と似たようなことをした。ここでは、交通量や現場の状況や費用面から工事の種類を決めていた。そういった様々な状況を見てどういう工事をするか決めるといことが重要だということが分かった。

獣害対策では、熊剥ぎの被害防止をするためにテープを付けて回った。急な斜面を歩くうえ、ほとんどの木が被害にあっていた。実際に被害の現場を見ると、なかなか対策が追い付いていないことが分かった。人間でやる作業なため時間がかかってしまうのは、いたしかたないことだと思った。

最終日に、高校生のボランティアの補助を行った。中には3年来ているという人もいるということに驚いた。実際にやっていくとあっという間に終わってしまったがこういった活動を通じて、少しでも森林については林業に興味を持ってくれたらいいなと思った。